

# 平成28年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成28年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

## 東シナ海底魚類

|        |           |                                 |
|--------|-----------|---------------------------------|
| エソ類    | ワニエソ      | <i>Saurida wanieso</i>          |
|        | トカゲエソ     | <i>Saurida elongata</i>         |
|        | マエソ       | <i>Saurida macrolepis</i>       |
|        | クロエソ      | <i>Saurida umeyoshii</i>        |
| ハモ     |           | <i>Muraenesox cinereus</i>      |
| マナガツオ類 | マナガツオ     | <i>Pampus punctatissimus</i>    |
|        | コウライマナガツオ | <i>Pampus echinogaster</i>      |
| カレイ類   | ムシガレイ     | <i>Eopsetta grigorjewi</i>      |
|        | メイタガレイ    | <i>Pleuronichthys cornutus</i>  |
|        | ナガレメイタガレイ | <i>Pleuronichthys japonicus</i> |



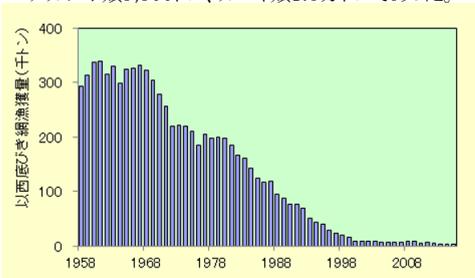
系群名 東シナ海  
 担当水研 西海区水産研究所

### 漁業の特徴

主に以西底びき網漁業(以西)によって漁獲される。かつて漁場は東シナ海・黄海の大陸棚上の広域に及んでいたが、現在では主に我が国EEZ内の九州西方海域に縮小した。対象種も大きく変化し、現在ではキダイ、マダイ、イカ類等が大きな割合を占め、ハモ、マナガツオ類の占める割合は小さくなっている。我が国の他、中国・韓国も漁獲している。

### 漁獲の動向

以西による漁獲量は、1960年代には30万トン以上であったが、1970年前半にはおよそ20万トンとなった。その後も漸減し、2015年は3,800トン、このうち、本資源の漁獲量はエソ類が199トン、ハモが1トン未満、マナガツオ類が2トン、カレイ類が34トンであった。本資源を最も漁獲している中国の漁獲量は1990年代に増加し、2014年はハモが38万トン、マナガツオ類が33万トンであった。韓国の漁獲量は近年やや減少傾向にあり、2015年の漁獲量はハモ1,400トン、マナガツオ類3,300トン、カレイ類1.5万トンであった。



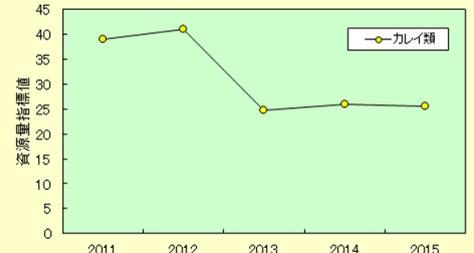
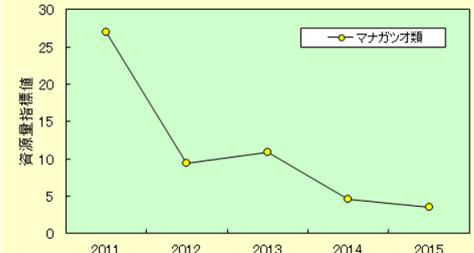
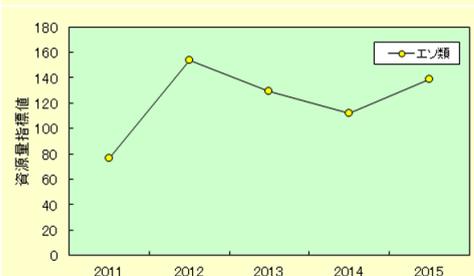
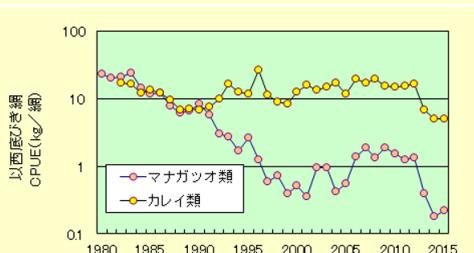
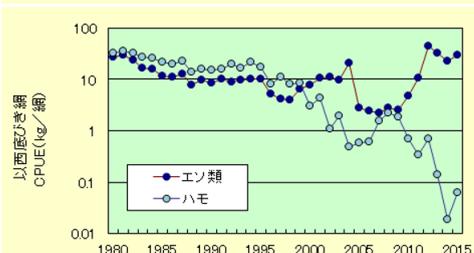
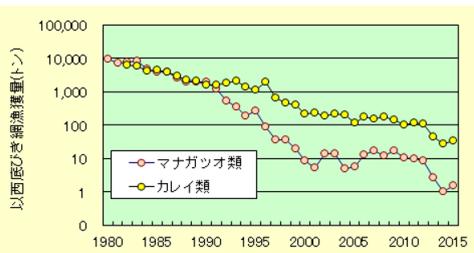
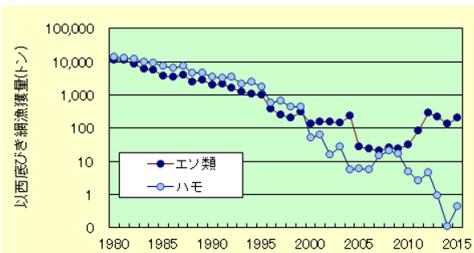
### 資源評価法

以西の漁獲統計(主に2そう曳き)と資源量指標値(東シナ海陸棚縁辺部において行った着底トロール調査から得た現存量推定値と以西におけるCPUEとの相乗平均)から資源状態を判断した。

### 資源状態

資源水準は、以西による本資源の1980年から現在までの漁獲量、および単位努力量当たりの漁獲量(CPUE)の長期的な推移から判断した。以西の操業漁区は年代により大きく異なり過去と現在の漁獲情報を単純に比較することは困難であることから、漁獲量やCPUEに対し資源水準を表す明瞭な区分を設けることは不適當である。しかし、いずれの種についても1990年代までに漁獲量、CPUEが共に大きく低下したうえ、近年の中国や韓国の漁獲動向も良好とはいえないことから、資源水準は低位と判断した。資源の動向は資源量指標値から判断した。東シナ海大陸棚上における近年の情報が著しく不足していることから、本資源全体の動向を判断することは困難である。従って本報告では、九州西方の我が国EEZ内の海域における資源量指標値の傾向から、エソ類は横ばい、ハモ、マナガツオ類およびカレイ類は減少と判断した。

| エソ類                           | ハモ                           | マナガツオ類                       | カレイ類                         |
|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 動向  横ばい<br>水準  高位<br>中位<br>低位 | 動向  減少<br>水準  高位<br>中位<br>低位 | 動向  減少<br>水準  高位<br>中位<br>低位 | 動向  減少<br>水準  高位<br>中位<br>低位 |



### 管理方策

本資源は、産卵場を含む主分布域が我が国EEZ外に存在する。我が国の漁獲が著しく減少している一方、中国と韓国による漁獲は日本よりはるかに多く、本資源に与える影響は極めて大きい。東シナ海における有効な資源管理のためには、関係各国の協力体制の構築が必要である。近年の以西の操業海域においては、資源の増減傾向に合わせて漁獲することを資源管理目標とするのが妥当である。

### 資源評価のまとめ

- 資源水準は、1990年までに漁獲量、CPUE共に大きく減少していること、および近隣国の漁獲の動向から、すべての魚種について低位と判断した
- 資源動向は、主漁場(九州西方EEZ海域)の指標値から、エンソイ類は横ばい、ハモ、マナガツオ類、カレイ類は減少と判断した
- すべての資源が低位水準であり、また多くの魚種で動向は減少にあることから、資源状態は良くないと判断される

### 管理方策のまとめ

- 近年の以西の操業海域においては、実際の資源増減傾向に応じた漁獲を続けることが望ましい
- 中国・韓国による対象資源の漁獲は我が国よりはるかに多く、有効な資源管理のためには関係各国の協力体制が不可欠

執筆者: 青沼佳方・酒井 猛・川内陽平

資源評価は毎年更新されます。